

婦人子ども

第十四卷
第九號



大正三年九月五日

フレイベル會

第十四卷第九號目次

高等女學校と幼稚園

『ポール・ドンビー』

我國在來の玩具ト恩物

英國の幼稚園教育

保育入門 (八)

岡田みつ

三宅登茂子

紹介生

倉橋惣三

八、幼稚園教育の方法

第二、其の材料——遊具

雜錄

フレイベル自傳 (第九回)

倉橋惣三譯

本誌定價

一冊郵税共金拾壹錢 六冊前金郵税共六拾錢
拾二冊同金壹圓貳拾錢 郵券代用一割増

購讀申込

本誌購讀御希望の方は右定價表により振替貯金にて御拂ひ
込み下さい。直に御送本致します。(振替口座東京一七二六
六番)

本會宛御用務

本會宛諸般の御用務は左の如く願ひます

(庶務上保姆紹介に關する件をも含む)の御手紙は
東京市小石川區久堅町七十四番地フレイベル會事
務所宛

會計事務は東京女子高等師範學校附屬幼稚園内、
雨森劍宛

本誌編輯の御用務(寄稿、廣告等)は東京府下代々
木山谷一二四倉橋惣三宛

大正三年九月四日印刷
大正三年九月五日發行

編輯兼發行者 倉橋惣三
東京府豊多摩郡代々幡村大字代々木山谷一二四

印刷者 平井登
東京市本所區番場町四番地

印刷所 凸版印刷株式會社本所分工場
東京市本所區番場町四番地

發行所 フレイベル會
東京市小石川區久堅町七十四番地

顧問 高島平三郎先生

モドコ

一冊五錢
郵分五厘
六冊稅分
金八錢共
五冊稅分
郵分五厘
二十錢
壹圓拾分

定價

畫雜誌

綺麗的
面育的
教育的

日本一

每月一回

モドコ 發行社

東京市小石川區林町五七
振替東京二七九六三

小兒科專門

院長 醫學士 石塚保吉

診療科目

小兒科一般、小兒健康診斷
營養法指導、乳母の檢定

診察時間

住宅
午前八時より 正午まで
午後七時より 十時まで
往診 午後一時より 六時まで
但し急患は此限りにあらず

入院應需

赤坂區青山南町三丁目(電車通り)

石塚小兒科醫院

電話 芝三四七四

高等女學校と幼稚園

—(在學生のために、卒業生のために)—

(一)

高等女學校に幼稚園を附設すべしとの論は、必ずしも事めづらしき説ではない。既に有識者の間に唱められたことも一再ならず、また既に其の實施を見て居る處もある。しかも、我國全高等女學校中、現に其の附設あるもの幾校を數へ得べきか。吾人は更めて大に之れを希望せざるを得ないのである。

現行制度に於ては、女子の師範學校に幼稚園を附屬せしめて、生徒をして保育の實習をなさしめることになつて居る。而して其の目的は或は幼稚園保姆となり、直接保姆とならざるも其の管督者となるものゝ爲に、保育上の實際経験を與へ置かうとするにある。或は又、それ程に直接でなく

とも、初等教育者として幼稚園教育の大體の知識を得せしめようとするにある。即ち、いづれにしても教育者としての準備である。

高等女學校に幼稚園を附設すべしとの主旨は、之れとは必ずしも同一でない。或は或る場合に於て、之れと相類する結果になることもあるかも知れないけれども、一般としては、母たるの準備のためである。

高等女學校に教育の教科を課することは、隨意科ではあるが先づ多數に於て行はれて居る。而して、その目的が教師を作るためでなく、母たるの資格の一つとして教育に關する智識を與へるに於ることは論を俟たない。高等女學校附屬幼稚園は此の目的の最も有効なる一助たらしめんとするも

のである。

高等女學校に於て、教育科として與へて置き度いことはいくらもあるが、子供を教育（平たく云へば世話をする）することの趣味、之れは是非與へたいことの一つである。勿論高等女學校生徒の年齢は、未だ充分此の趣味を理解せしめ得る時期でないと言へない人もあるかも知れない。理論上そう言へないこともない。しかし高等女學校少くも五年生が、子供といふこと、従つて其の教育といふことに就て可なり多くの興味を有することは事實である。導き様によつては、其の興味に訴へて此方面の可なり深みもあり、固定性もある教育が出来るのである。しかも、今日的高等女學校の教育科は、其の點甚だ徹底して居ない。而して其の徹底せざる理由の一つは、教育といふことが餘り知識になり過ぎるからである。尙一層推し進めて言へば、教育の對象たる子供といふものが、餘りに學問的に取扱はれて、抽象的になり過ぎるから

である。而して此の弊を救ふための注意は種々考ふべきことがあるのであるが、附屬幼稚園を設けて『子供』と『教育』とを多少でも具體的に經驗せしめるのも最も効果多き手段である。

勿論、高等女學校の現行課程のまゝで、此のために充分なる時間を得來することは困難である。根本上に革めなければならぬことになるかも知れない。しかし、出來得る限りの便宜を以て、或は幼兒と共に遊び、或は幼兒にお晰をなし、或は玩具の整理法、また其の與へ方、辨當の世話、身體検査の方法、此の位のことなれば機會を見ての實習も必ずしも困難であるまい。假りに又特殊なる經驗を與へ得ない迄も、その實際の甚だ容易ならずして、而して甚だ興味多きことなることを、實地の上に領得せしめることだけにても、効少からずと思ふのである。

(二)

高等女學校附屬幼稚園は、たゞに高等女學校在

學生のために用ゐらるゝのみではない。吾人の寧ろより多く其の價値を認めんとするは卒業生のためである。

高等女學校卒業者が、家庭に入つて主婦となる迄に尙ほ兩三年の準備を必要とする事情は、年を追ふて増加しつゝあると言つてよい。此の爲に女子の高等教育のための學校の設けらるゝ他に、各の女學校は、或は補習科其他の名稱のもとに此の機關を備ふることが普通になつて居る。而して之等の補習機關に於て、如何なる學課が補習せらるゝかと言へば、或は裁縫、或は理科學の如き學課である。之れ勿論大に大切なることである。しかも、此の折角の好期間を利用して、主婦の準備の他に母の準備として直接必要のことを補習するも、亦大に適當なりと信ずるのである。

此の目的のために、附屬幼稚園の充分自由に利用せられ易きことは、在學生のための場合の比ではない。或は志望によつては、幼稚園に於ける幼

兒取扱の實習を其の主教育となすも亦可なりである。而して、此の事は各自の母校に幼稚園の附設せられあるといふことによつて、始めて容易なり得べく、又おのづから奨勵せられ易いのである。

幼兒教育そのものゝ方より言へば、斯くの如き練習生のために練習の具となることは必ずしも喜ぶべきことではない。しかし、それは暫くそれとして、練習をなす人には如何ばかり有益のことか測られない。假りに毎年の卒業生中、十人乃至十五人位の志望者を許すとせよ。之れ等の人々は、附屬幼稚園を中心として、子供の世話、教育に關する實地上及び實地に關聯する學問上の教育を受けること一兩年、その間に母として必要な諸技能を學び得るは勿論、更に此の實習を中心とする精神上の諸訓練を得ること、蓋し最大なるものがあろう。吾人の信ずる處によれば、高等女學校卒業後數年の時期は、女子の精神的陶冶訓練を與ふるに最も効果多き時である。而して、その爲には教

説に訴ふるよりも、實地の上によりき指導を興へ得るならば、其の効殊に著大なのである。換言すれば、よき經驗を經驗せしめるを最も有益とするのである。

子供の世話は詩の如き一面を具ふると共に、又甚だ現實なる一面を持つものである。一口に言へば、多くの勞苦と又面倒と、殊に非常なる忍耐を要することである。更に極言すれば、子供の爲に我を献げて奉仕せなければ出來ないことである。

其の勞苦と忍耐と而して犠牲と、我が精神の訓練の上に何たる貴くして幸なる經驗であらう。況んや母校の師君は、其の間に周到なる指導を興へて其の一日々々を自ら獨りして味ふよりも意味深き

ものたらしめらる。何たる活きた補習教育であらう。

世には、眞に自己を訓練せんが爲に、或は慈善病院の看護婦となり、或は白痴院の助手となり、以て自己の愛心を試み又之れを純化せんとする篤志家も稀ではない。高等女學校卒業者が、幼稚園に入つて勤勞に服する如きは、之等の人々に比して、敢て言ふに足らぬ容易さである。しかも、程度こそ違へ、得來る精神上の利益は、聊か相似たりとも言ふを得よう。

若し又、學校の指導施設完きを得て、之れに幼稚園保母たるの免狀を興ふるを得ば、又他の意味に於て好都合なる點も尠くない。

『ポール・ドンビー』（ヂッケンス） (三)

英文學に現はれたる子供 (二十一)

ビブチンさんは、殆一ケ年間ポウルとフロレンスとを預つた。その間に、二人は二回程歸宅したが、それもほんの四五日で、あとは父が毎週尋ねて来る度に、その旅館へ逢ひに行くと定まつてゐた。ポウルも、少しづゝ丈夫になつて、乳母車も不用な位になつた。併し瘦せて弱々しく、やはり、沈んで考へ事をする子供であつた。

或日、ドンビー君が不意にビブチンさんを訪問した。客間に遊んで居た子供連は、旋風のやうに二階へ追ひ上げられた。其處で、寢室の戸の烈しく閉まる音や、彼方此方を踏みあるく足音や、ビザストンがビブチンさんに打たれる響やら聞こえたあとで、ビブチンさんは静々と應接間に現はれた。ドンビー君は、ポウルも、はや満六歳に近くなつたので、他人に劣らぬ程に學問を仕込んで、將來自分の後を嗣ぐ大實業家に仕立て上げなくてはならぬから、ビブチンさんの學校を止めて、近くのプリンパー博士の學校へ入學させる所存である

が、あのやうに、慕ひ切つて居る姉から、急に離しても宜くあるまいから、フロレンスはビブチンさんの處へ置いて、最初半ケ年間、ポウルが毎土曜に、姉の許へ遊びに来るやうにする考だと告げて尙、ビブチンさんには、間接に、ポウルの教育上の監督者の位地に立つてゐてもらひたいと頼んだ。ビブチンさんは、反對のしやうもなく、一々尤らしい挨拶をしたので、ドンビー君は、流石、女教育家だと、その意見に感心したり、その利慾の念の薄いのを賞めたりして、得々と族館へ戻つて行つた。

さて、プリンパー博士の學校といふのは、なか／＼骨の折れる學校で、ブ博士は、生徒の數を十名と限つて居るが、百名に教へる程の材料を、その十名の頭腦に詰め込むのが職務であり、又快樂であると心得てゐるのであつた。此學校は、例へば無理にでも花を咲かせやうと仕掛けのしてある大きな温室見たやうなもので、此處の生徒は、皆

早咲きがして、早く實が生つてしまつた。それも結構だといはゞいはれるが、無理な細工には不利も伴ふわけで、季節外れの成果は、味も悪く早く駄目になつてしまふ。此處の生徒にツーツといふ、頭の馬鹿に大きい、鼻の脹れてゐる青年がゐるが、十名中の最年長者で、あらゆる學科を仕込まれた結果、花も咲かず、實も結らず莖ばかりになつて、まだ在學してゐた。世間では、ブ博士があまり手を掛けすぎたから、この青年は、鬚が生える時分には、頭腦がどこかへいつてしまつたのだと評してゐた。

此學校の玄關に、或日、ポウルは立つた。一胸を轟かせながら、右の手は緩く父の手に、左の手は、しつかり、フロレンスのに掴まつて、

「ポウルや、此處で勉強するとね、今に立派な店の主人になつて、御金が儲けられるよ。御前も、やがて、ちぎに一人前になるからね。」

とドンビー君は、案内を乞ふ暇に、ポウルに云

つて聞かせた。

「え。もう直き。」と答へたポウルのませた、萎びた顔付には、ドンビー君も不安の念を起こさずには居られなかつたが、取次が出て來たので、長くその方に心を止める暇がなかつた。一行四人（ピブチンさんも一所に來たので）内へ請せられた。

プリンパー博士は、威嚴しい書齋に、地球儀を左右に控へ、書籍に取り巻かれて、坐つて居た。

挨拶をしながら、博士はポウルを見やうとしても、その席からは書物に遮られて、一向に目に入らないので、幾度も机の横手から覗こうとしてゐる様をドンビー君が悟つて、ポウルを抱き上げて、室の中央の机の上に博士と相對するやうに、腰を掛けさせた。

「はあ！、やつと見えました。どうですか、坊ちゃん。」

と、博士は胸に手を當て、反り身になつて言つた。

廊下の時計が「坊ちゃん、どうです。坊ちゃん、

どうです」と繰り返して言つてゐるやうに、ポウルには聞こえたので、

「ありがたう。丈夫で御坐います。」とポウルは博士にも、時計にも答へた。

「はあ！、立派な人間にして上げますかね。」

ポウルが黙つて居るので、

「ポウルや、どうだ、解つたかい。」と、ドンビー君が言ひ添へた。

「立派な人間にして上げませうかね。」と博士は繰り返した。

「子供でゐた方がよい。」とポウルは答へた。

「へーい。何故ですか。」

ポウルはで、いろいろの胸の思を堪へて居るといふ顔付をして机の上から博士を眺めて坐つて居た。而して、湧き出る涙を抑へる積りか、片手で膝を叩いて、もう片方の手を少しづつ、身體から離して、だん／＼に、フロレンスの方へ伸して、

終にその肩へつかまつた。「その理由は之」といはぬばかりに、其と同時に、ポウルは引締まつてゐた顔付を崩して、慄へて居た唇をゆるめて、泣き出した。

「ビブチンさん。こんなでは困りますな。」と不興

氣にドンビー君が言つた。

「こちらへ離れていらつしやい。フロレンスさん。」とビブチンさんが言つた。

「其儘にして御置きなさい。」と博士はビブチンさんを押し返すやうに、頷いて「捨て、御置きなさい。おきに氣が轉するやうに致しますから。御子息さんは此處で御修業を……」

「え、どうか萬事御教育を願ひます。」とドンビー君は動せずと言つた。

「はあ！」と言つて、博士が目を半ば閉ちて、ポウルを見遣つたありさまは、手に入れた珍動物を、剝製にしようとする時の愉快さにも似て居た。「はあ！無論です。この御子さんにいろいろの智識を

授けて、成丈早く出来上るやうに一つ致しませう。學問は始めて御出ですね。」

「宅で少しと、この夫人から少し手解をして頂いた他には、ポウルはまだ一向に學んで居りません。」とドンビー君が言ふと、ビプチンさんは急に堅くなつて、博士が自分を貶しでもするかと、鼻息荒く控へて居た。

ブ博士は、ビ夫人のやつてゐるやうな、人目にも付かぬ、内職教育は齒牙にもかけぬといふ態度で、手を揉みながら、頷いて、

「根本から始めるのは誠に好都合で。」といひながらポウルを横目に見、此場ですぐギリシヤ語のABCを持ち出して、ポウルを虐めたさうであつた。「其では此上御妨げをする必要もありませんから。」とドンビー君が立ち上らうとするのを、ブ博士は引止めて、

「失禮ですが一寸。妻と娘とを御紹介いたします。二人とも生徒の家庭的生活を擔當してゐ

ますから。」

と、ブリンバー夫人とブリンバー嬢とを呼んで引合はせると、二人は、ドンビー君とビプチンさんとを連れて、寄宿舎の案内をすると出ていつた。取り残されたポウルは、やはり机の上に載つて、フローレンスに手を曳かれて、恐る／＼博士の目を盗んで、室内を見廻して居た。博士は椅子に反り返つて、胸に手を當て、本を腕の限り引離して讀み初めた。

やがてドンビー君が戻つて来て、机の上のポウルの近くへ寄つて、

「では、お父さんは歸るから。」

「さやうなら。御父さん。」

その憂を含んだ顔に比べて、握手した手は極めて力ないものであつた。實際その悲しみの表情は父に對してはなく、只フローレンスの爲であつたのである。

「ちきに御父さんは來るから。土曜、日曜は御前も

御休みですからね。」とドンビー君はいった。

「え、土曜と日曜。」とボウルは言ひながら姉をのみ見て居た。

「よく勉強をして、賢くなるやうに。」

「え。」とボウルは大儀らしくいふ。

「もう直に大きくなるから。」

「え。」とボウルは答へて、亦老人めいた顔を見せた。

ドンビー君がいざ歸るといふ際に、博士も、夫人も、娘も一所に送り出た混雑で、ビブチンさんは、博士とブ嬢とに絡み合つて、その機勢に、フロレンスを取り残して、一人先へ書齋から出てしまつた。御蔭で、フロレンスはボウルの首にしがみ付く暇が出来、涙の中から微笑み／＼弟を見返つて最後に室を出た。

ボウルは、フロレンスが去つた時に、胸が一杯になつて、地球儀も書籍もグル／＼轉回するやうに覺えた。急にそのグル／＼が止まつたと思つた

ら、廊下の時計が「坊ちゃんどうです。坊ちゃんどうです」と前の如くに尋ねてゐるのが聞こえた。ボウルは、手を組んで、机の上で黙つて聴きなながら、「淋しくて、悲しくて、」と答へたかつた。

博士の家族が玄關から戻つて來た。博士は、ボウルを机の上から下ろして、ブ嬢に引渡しながら、「この生徒は、初のうちは御前さんの受持ちにして置くから、精々と進ませなさい。進ませなさい。」と言つた。

ブ嬢はボウルに對つて、

「年はいくつ。」と尋ねた。

「六つ。」とボウルは答へながら、何故此婦人感男見たやうな威嚴い風をしてゐるのか、何故フロレンスのやうに髪を長く伸ばさないのかと考へてゐた。

「ラテンの文法をどの位習ひましたか？」

「ちつとも習ひません。」とボウルは言つたが、聴く人が呆れて居るのに氣が付いて、

「僕は病氣だったので始終弱くて……毎日／＼
グラブと戸外にばかりゐたので、ラテン文法を
習へなかつたのです。……あのう。グラブに逢ひ
に來るやうにツて、そういつてやつて下さい。

「まあ何といふ下等な名！、下品なものにも程があ
る！、一體どんな化物なのです。」とプリンパー
夫人が言つた。

「化物ツてどれが。」ポウルは問ひ返した。

「グラブの事。」と夫人が汚りらはしさうに言つた。

「彼あれだつてあなたと同じで、別にかはつた化物で
はないんです。」

「何です！」と博士は怒鳴つた。

ポウルは吃驚し、怖れ戦むないたが、其でも不在の
グラブの味方をして、

「大變良い人なんです。始終僕の車を曳いて呉れ
たんで。深い海の事を、よく知つて居るんです
よ。海の中にゐる魚の事も、それから岩の上へ
日向ぼツこに來る怪魚の事も。その大きな魚が、

何かに驚くと、鹽を吹いて、而して何里も／＼
も響くやうな物音を立て、急いで水の中へ潜もぐ
つてしまふんですつて。それから又かういふ魚
もあるんです。」とポウルは、我を忘れて乗氣に
なつて、「丈たけの長い魚なので、僕は名を忘れまし
たが、姉さんは知つてゐます。その魚が死にさ
うな風をして見せると、人が氣の毒がつて傍へ
行くでせう。すると、大きな口を開けて、人を
呑まふとするのですつて。そういふ時に、人は
ね、」と大膽にも博士に對つて智識を授けにかゝ
る。「ぐる／＼方向を變かへて逃げるのです。する
と、その魚は丈が長いからよく身からだが曲らないで、
のろ／＼しか動けないから、しまひには負けて
しまふのです。グラブは、何故、海が死んだ
母さんの事を僕に思ひ出させるのだから、何を海
はいつても——いつでも言つてゐるのだから、そ
れは彼あれには解らないんですが、其でもいろんな
事を知つてゐますよ。あ、僕は。」と急に調子を

變へて、悲しさうな顔をして見馴れぬ三人の顔を佗わびげに見て「クラブに逢ひに来てもらひたいナ。像はあれはよく知つてゐるし、彼も僕を知つてゐるに」

「はあ、之は困るナ。しかし稽古を始めたら宜からう。」と博士は首を振りながら言つた。

翌朝、ポウルは、三階の寢室で、一人で着物がよく着られないので、同室の二人の生徒に、紐を結んで呉れとか何とか頼んだのだが、甲乙ともに「うるさい」とか「ウン」とか生返事なまをしてゐるから、ポウルは階下へ降りて見たところ、若い女中が皮の手袋をはめて、フトーブを磨いてゐた。その女は、

ポウルを見て吃驚りして、「御母様はどちら」と尋ねた。「母さんは死んでしまつた。」とポウルがいつたらば、女は手袋を脱とつて、着物を着せてくれて、ポウルの手を揉み暖めてくれて、何でも着物の事で困つたら、「メツヤ」といつて御呼びなさい、といつて呉れた。ポウルは、禮をいつて、下の勉強

室へと、足音静に、ある室の前を通つたところが、「ドンビーさんか」と誰か聲をかけた。ブ嬢の聲だと思つて「はい」と答へた。

「御入りなさい。」といはれてポウルは室内へ入つた。

「私は之から保養運動コンステチユーションにゆくのですよ。」とブ嬢がいつたが、ポウルには保養運動とは何物だか解らないので、そんなものが入用ならば、自分でゆかすに人を遣われば宜いと思つてゐたが、何とも挨拶をせずに、新しい書物が、高く積んであるのを注視してゐた。

「之はあなたの本なのですよ。」

「皆？」とポウルが訊ねた。

「え、私の思ふ通りにあなたが勉強すると、もつと澤山本を上げます。」

「ありがたう御座います。」

「私は保養運動にゆくのですから、其間にね——今から朝御飯までに、この本の中で私が印しるしを付

けて置いたところを明けて、今日の分がよくわ
けが解るかどうだか見て御置きなさい。愚圖愚
圖してゐては駄目ですよ。下へもつて行つて、
直ぐ御掛かりなさい。」

「はい」とポウルは答へた。

本の数が多いので、ポウルは一番下へ手をいれ
て、一番上に手と顎あごをかけて、一生懸命に抱へ込
んだのだが、室を出る迄に中程のが飛び出して、
其から全體が皆足許にドカと落ちてしまつた。

「あれ ドンビーさん。不注意ですね。」とブ嬢は
いつて、新規に積み直して呉れた。ポウルは、こ
んどは上手に釣合を取つて、室を出たが、階段はしごを
二三段ゆくと二冊落ちてしまつた。その余のは、
しつかり掴んでゐたので、もう二冊途中に落ちた
けいで、大部分を勉強室に運び了せた。それで、
こんどは落ちこぼれを集めに、又階上に戻つてい
つて、すつかり揃つたところで、自分の席に攀ぢ
上つて、勉強に取り掛り朝飯になるまで續けてや

つた。

食事が済んで、ブ嬢について二階へいつたら、
ブ嬢が「本はどうですか」と訊いた。

その本は、英語が少しと、ラテン語が可なりと、
文字論の片端と、古代史の始と、現代史の一瞥と、
度量衡の表が一つ二つ等であつたから、ポウルは
第二のを覚えると第一のを忘れ、頭の中では、人
の名が、目方の名とごつちやになり、文法も歴史
もいれませになつてしまつてゐた。

「これではまあ仕様がない。」とブ嬢がいつた。

「あとう。時々グラブと話をする事が出来るよ、
もつとよく覚えられるンです。」とポウルは言つ
た。

「そんな詰らない事！、いけません。此處はグラ
ブなどの來る處ではないのです。では、本を
一冊もつていつて、今日の處をよく覺えたら、
次に移る事にしなくてはいけません。最初一
番上の本をもつていつて、よく出來るやうにな

つたら、私のところへいらつしやい。」

ポウルは、言付けられた通りに、一番上の本を取つて階下の室で勉強した。どうかするとすらすら暗記が出来、又どうかすると皆忘れてしまつたりしたが。大抵覺えたと思ふた頃に、ブ嬢の前へいつた。併し、先生に「さあ云つて御覽なさい」と言はれた途端には、ポウルは狼狽して、亦全體が頭腦の中から抜けてしまつたやうだつたのを、兎に角に終りまで暗誦し得たので、先生が賞めて、さあ次のに移つてと指圖した。かういふ風に、それから／＼と晝飯までに四科目を濟せてしまつた。晝食後も、すぐ勉強なので、ポウルは頭が混雜して、茫然して勢がなくて厭でたまらなかつたが、他の生徒も、皆同様の氣分で居ながら、やはり本に向つて居なければならなかつたのだから、どうも免れる途はなかつた。夕食後も亦、練習やら翌日の豫習やらで暇がないから、就寝時間が來て、始めて休息安苦の安らかな思ひをするのであ

つた。

併し土曜日の嬉しさは、たとへやうが無かつた。フロレンスが必らず來てくれた。どんな天氣でも、又どんなに、ビブチンさんが文句をいつても、虐めても、フロレンスは必らず來てくれた。海邊へ二人でいつて、彼方此方逍遙しやうとも、又ビブチンさんの宅の、陰氣な奥の室で、姉に小聲で唱つてもらつて、その肩に倚れてうと／＼しやうとも、爲る事や、ゆく場所はポウルに取つてはどうでもよいので、たゞ姉さんさへ一所なら宜いのであつた。

ある日曜の夕方、フロレンスは侍女のスザンを連れて、ポウルをブリンパー家へ送り込んで、歸つて來ると、やがて懷から、鉛筆で何か書いてある紙片を取り出して、

「スザン、之がポウルさんの學んでゐる本なのだよ。ポウルさんが疲れて出來なかつたからつて、よくお休み日に本を此處へ持つて來るだろう。」

昨夜そつと名を寫し取つておいたのだよ。」

「私になんぞ御見せになつても駄目で御座います。」

「この本を、明日、私に買つて来て御呉れ。御金はあるから。」

「まあ何で御座いますつて。本なんか山程御有りで、而して年百年中、先生達に何か教はつてお出のではありませんか。」

「この本を買つて来てくれられるだろう。入用があるのだから、買つて来て御くれ。」

「え。よろしう御座いますが、何になさるので御座います。」

「その本を讀んで置いて、ポウルさんの手傳をするのだよ。そうすれば次の週ポウルさんが少しは樂だから。まあ私はやつて見たいの。ね、だから買つて来て御呉れな。御前の親切は忘れないよ。」

かういつて御金入を渡して、やさしく頼むフロ

ーレンスに對しては、どんな頑かたくな心の人だつて拒む事は出来ないの、スザンも答へもせず、御金を受取つて其足で買ひにいった。

フローレンスは、其本が来てからは、自分の日課が濟むとポウルの學課を一人でポツ／＼やつた。

元來利發な上に、弟を思ふ一心が加はつて、直きにポウルに追付き、果ては追越してしまつた。ピプチンさんには素より一言も話さず、フローレンスは、人が皆寢静まつて、暖爐の灰が冷たく白くなり、燈火が燃盡きさうな頃に、只獨り弟の身代りにと心を盡したのである。それで或土躍の夕、ポウルが勉強をするつて机に向つた時に、フローレンスが傍に居て、難むづかかしい事を容やさしく話し代へてやり、暗いところを明るくしてやつた其時に、フローレンスは心に足るだけの報を得た！、ポウルは、始は驚きの眼を見張つたが、顔を赤めてニコツと笑んで、急に姉に飛び付いて、

「まあ姉さん！、僕は姉さん大好き／＼／＼。」と

いつた。

「私もポウルさん好き。」

ポウルは多く言はなかつたが、其晩中フロレンスの傍にピツタリ倚りそつてじつとしてゐて、床に就いてから三四度「よい姉さんだ〜」を繰り返した。

それからは、土曜の晩には、フロレンスが、

我國在來の玩具と恩物

ポウルの傍で、次の週に要しさうな事を、根氣よく教へてやるのが規則のやうになつた。姉さんが目を通したところだと思ふと、ポウルにも其處をするのが樂みになり、又實際に荷が軽くなるのでポウルはブ嬢の負はせる重荷の下に潰つぶされずに濟んだ。(續く)

大阪市西區本田
幼稚園保姆 三宅登茂子

幼児教育の一用具として玩具は廣く用ひられて居ります。この玩具の適不適、豊富、貧弱は幼童心身の發達と密接な關係があり、時としては教師の働きより玩具の勢力が一層大なることもあります。夫故に適當なる玩具を澤山兒童に與へることは幼児教育には誠に大切なることであります。つ

きまして私の卑見を聊か申述べたいと存じます。私は玩具は子供の爲に造られた物なれば危險な物の外は何んでも使用致させたいと思ひます。殊に從來の幼稚園恩物だけでは幼児のあらゆる心身活動をなさしめるには甚だ不足である。其多くは高尚な精神的作用を活動せしむる物が多いやうに思

ひます。そこで私の考へます處では、フレーベル先生が此恩物をお考になつた時代は未だ子供の實驗心理學的研究がせられてなかつた爲に其見方が違つて居つたのではないかと思ひます。此時代は子供を大人の小さいものと思ふて居つたのでありませう。故に恩物も之に適當する様に拵らへられたのでありませう。それ故恩物の多くは抽象的のものでありまして、主として精神の比較的高尙なる作用の活動又は發達に資すべきものが多いやうに思ひます。又之を使用する上に於ても全々個人的のものであります。

然るに幼稚園に於て保育上重要視する點は幼兒の自由活動に依り身體養護、及び發達を專とし、又遊戯に依りて共同一致の精神及び各種の感覺機關の練習をなし、學齡に至り小學校教育を受け易からしむべき心身たらしむることでありませう。

然らば從來の恩物のみでは身體の養護を主とす可き體育的玩具、共同的精神養成に使用す可き共

同遊戯の玩具等の不足が起つて來ます。故に幼兒に恩物を使用なさしむる場合には、之を普通玩具と做して在來の玩具と併用して恩物の抽象的なるものを具體的ならしめて使用なさしむれば保育上有益なる事と思ひます。假令ば汽車の玩具を使用する場合、積木にて停車場を拵へ箸をならべてロールとなすが如くすればよいと思ひます。

次に在來の玩具に就いて申上ますと、此方が比較的現今の幼稚園保育に適して居るものが多い様に思ひます。さう申しますと私が元來玩具煩惱でありますから我田引水勝手なことを云ふのではないかと仰るおしやかも知れませんが、私は種々なる方面から考へますと、第一在來の玩具は具體的のものでありまして幼兒の自由遊戯によりまして各種の精神作用と具體の發達を謀るべきものが多くて又共同的使用に適して居ります様に思ひます。子供の使用して居ります有様に就いて一例を擧げて申しますと、前と同様に汽車の玩具を使用する場

合、幼兒は思ふ儘に之が全體及び部分を指先又は掌にてなでます。これに依つて觸覺練習をなすことが出來ます（これはモンテッソーリ氏式をいれたのであります）。次に色彩形體に就きて暫時く視覺の練習をなし然る後に『ゼンマイ』を掛けて下に置き、之が行進と共に幼兒はさながら汽車に乗りたる如く、さも愉快げに兩手を上下前後に圓形を畫きしゆくと車輪のきしる音を想像的に發聲しつゝ、汽車と共に拾人の一團體の子供は皆走り出します。汽車が行進を止むれば拾人一團の幼兒は之と共に立止まりて「ポツ」大阪くと先頭なる子供が呼びます。そう致すと今迄傍に之を見て居りました子供は「お歸りなさいませ」「お早うございましてね」など申しまして叮嚀に摺挨拶をして禮儀の練習を致します。と云ふ風に使用して居ります。之等はほんの一例に過ぎないのであります。其他種々なる玩具を保育上に使用致しますれば直觀と經驗的想像とによりて確實なる觀念を形造ること

が出來ます。又兩手にて圓形を畫きつゝしゆくと發聲し汽車と共に行進致しまするなどは體育上大なる利益があります。最後の下車に至りて父母兄弟の旅行歸りを迎へ、摺挨拶をなすが如く徳育上に有益なる點に至りましては到底幼稚園恩物の及ぶところではありません此一例に依りて考へましても幼兒保育上多方面に利益する點が在來の玩具の方に多い様に思ひます。

然らば未だ概念作用の發達しない幼稚園時代の子供には從來の恩物は適せない點が多くて日本在來の玩具の方に適當する點が多い様に考へます。然しフレーベルの恩物も先生が世に居られたならば或は妙味ある様に使用せられるかと思ひますが私が年來の經驗に依つて考へますと在來の玩具を應用的に使用する方が保育上有益と思ひます。

以上は實際經驗上からの所感を述べただけであつて、この問題に確固たる解決を興へた譯ではありません。もすこし、フレーベル氏の恩物の効果

を吟味し其次ぎに在來の玩具の教育的價值及び其
使用法を研究した上で更に卑見を述べ諸家の御示

教を受けたいと思ひます。

英國の幼稚園教育

〓〓(マーレー氏による)〓〓

紹 介 生

英國の幼稚園界の大體を窺ふには先づ一八五四年斯學の殊勳者獨逸のマーレンホルツ、ビューロー男爵夫人の倫敦へ來た事から筆を起さねばならぬ。當時英國ではドイツケンスが子供を大人扱ひにする教育を非として盛んに之を冷評してゐた。ドイツケンスはマーレンホルツ、ビューロー夫人と力を協せて弊害多き當時の幼兒教育の改良を圖つた。

この頃倫敦のタビストック、ブレースの三十二番にはロンジ夫人の經營に係る幼稚園が既に設け

られてあつた、これは英國の最初の幼稚園でドイツケンスなども度々たびく此所を訪れた、マリア、ボエルテ(後にクラウス、ボエルテ夫人)がこの幼稚園に補助を與へてゐた。

一八五四年藝術會が主催になつてセント、マーチン堂ホーに萬國教育博覽會を開き同時に萬國教育家大會を催した、これはコンソート太子の總裁で大部世間の興味を惹いた、マーレンホルツ、ビューロー男爵夫人はこの博覽會へ種々幼稚園に關する材料を出品した、而してロンジ夫人は自ら出品物

の傍に立つてこれが説明の勞を取つた、尤もこれにはフレーベルの門下生と稱せらるゝホッフマンが種々助力を與へたものらしい。

ナシヨナル會の監督ミツチエルが此の博覽會を見た結果ロンジ夫人の幼稚園を訪れた、而して従前の幼兒の學校の不完全を認め、子供の生活に新なる廻轉機が到來したと稱し子供を子供として取扱ひ、子供をして自發的に働かせ、子供に適するやうな玩具や方法を以て漸次向上的に教育してゆく組織の必要を論じて同會に報告した。

それから又一八五五年にはドイツケンスがハウスホールド、ウワールド(雜誌)に「幼稚園」といふ記事を寄せた、それには「子供といふものは全智全能の神によつて活潑な運動とすべての才能の發達の中に幸福を見出すやうに作られてゐるのだから我々子供を相手にしてゐる者は子供のエネルギーを抑へ附けたり、子供の身體を束縛したり、子供に口を緘ぢさせたりしてはよろしくない……子

供時代の嬉戲を單なる力の溢れや徒勞とばかり解してはならぬ。「子供の遊びの中には往々にして深い意味がある」とフレーベルは言つた、我々はこの言葉を翫味しなければならぬ、而して自然の興ふるヒント——否ヒント以上に働かうではないか」といふやうなことも書いてある。

ロンジ夫人はその後間もなくマンチエスターに行くことになつたので幼稚園はブレートリアス嬢の手に托された、然るに一八八三年になつてフランクス嬢がブレートリアス夫妻に譲られてこの幼稚園を繼承することゝなつた。フランクス嬢は英國フレーベル會の設立に盡力したジョセフ、ペイネ教授の講義に出席したこともあるし、ポーチュガル夫人に教を乞ふべく遙々ジエネバに赴いたこともある位で斯學には却々熱心な人である。この幼稚園は今尚ほ存在してゐて英國最初の幼稚園として注目されて居る。

マンチエスター幼稚園協會は英國に於けるこの

種の團體の最初のものである。この會の設立も亦ロンジ夫人に負ふ所が大である、而して一八六一年彼の有名なヘーワルト嬢とポーチュガル夫人とが英國へ來たのはこの會があつたためなのである。

マーンホルツ夫人が獨逸へ歸つた後はホッフマンがマーンホルツ夫人に代つて倫敦で講義をしてゐた。ベスタロツチの教育法を兒童教育に應用せんとするホーム、アンド、コロニアル會は早くもこの方面に着眼しホッフマンを聘してその研究生に聽講せしめた。ブリチシ、アンド、フォーレン會も亦幼稚園組織を幼兒の學校に取入れることに腐心した。

斯くて種々の弊害もあつたが幼稚園法は漸次初等の學校に行渡るやうになつた。

マーンホルツ夫人が始めて英國へ渡つてから二十年の後即ち一八七四年が眞個の意味に於て幼稚園といふものゝ幕が切つて落された年である、

有名な一八七〇年の條例によつて學務課が新設され兩親が貧しければ生徒の授業料を免除することとなつた、倫敦の學務課の最初の仕事はハックスレイ教授を議長として幼兒の學校の課業に就て考へるために委員を任命することであつた、その結果カロリン、ビショツプ夫人が幼兒の教師達に幼稚園の原理と方法とに就て講演することゝなつた一八七四年ブリチシ、アンド、フォーレン會も亦熱心に同様の組織を取るやうになつた、委員はその頃マンチエスターやダブリンなどで働いてゐたヘールワルト嬢を聘して生徒に聽講させ一時幼稚園の雛形を體育學校内に設けたりなぞした。

ブリチシ、アンド、フォーレン講習學校の校長ボルネはこの運動に多大の興味を持ち一八七五年いつにだて一戸建の家を借受けて幼稚園講習學校を作りヘールワルト嬢をしてこれを管理せしめた、この講習學校は一八八四年まで續いた、而してこの年にマデラの發議によつて校舎は幼兒の學校の女教員

達のために明け渡された、爾後ステイレ嬢次いでダンロップ嬢（一八九一年以後）が漸次世間に認められて來た斯學のために講義を續けてゐた。

この一八七四年の十一月十日にはヘールワルト嬢、ミカエリス嬢、ビショツプ嬢、マンニング嬢ジヨセフ、ベイネ教授の五人がドレック嬢の邸に會し始めてフレールベル會を組織した。

ドレック嬢はホッフマンの講演に興味を感じ直ちにキルデア、ガーデンズにあるその學校に幼稚園を新設した人である。

フレールベル會の第一の會頭はドレック嬢、名譽書記はマンニング嬢であつた。

女子教育に就てその頃既に大部問題が起りかけて來た。各種の階級に屬する婦人教育改良同盟會なるものが一八七二年ガールズ、バブリック、デイ、スクール、カンパニイなるものを創設してその目的の一部を遂行した。

ウイリアム、グレイ夫人（マリア、グレイとも

いふ）はこの同盟會の有力な會員であつた。グレイ夫人もその姉妹きょうだいのシルレフ嬢も創立後間も無くフレールベル會に入會した。

一八七七年ドレック嬢が逝つてからシルレフ嬢がフレールベル會の會頭を襲うた。

シルレフ嬢は奮闘家でその講演や著作は同會の趣旨を弘めるに功があつた、一八九七年逝去するまでシルレフ嬢は會頭の職に在つた。これが高等女學校と幼稚園との間に存する結び目であつて今でも女學校に多く幼稚園部の設けられるのはこれがためである。

マールンホルツ、ビューロー夫人、ポーチェガール夫人、フォーゲール夫人（イダ、ゼーレ）等の友でも弟子でもあるミカエリス夫人が一八九四年の四月に英國へ渡つた、ミカエリス夫人は母親達を集めて講演を試みた、聽講者の中にはレウイス夫人（ケート、テリイともいふ）も混つてゐた。

ミカエリス夫人はノツチング、ヒル高等學校ハイスクールので

幼稚園の講義をすべく任命された。

フレールベル會は擴張事業としてクイーンズ、スクエアにあるカレヂ、フォアア、メン、アンド、ウイメンで講演會を開いた。而して一八七六年には試験をして教師を檢定した。斯くて一八七九年にはフレールベル會はフィッロイ、スクエアのタビストック街へ教師達のために講習學校を設立した而してビショップ嬢がこの學校の第一の校長となつた。一八八一年ケールルの門下生で有名なブライトンのロエデアン女學校の創設者にして校長なるベエネロープ、ローレンス夫人がビショップ嬢の後任としてこの學校の校長となつた。

婦人教育同盟會は間もなく同會の諸目的即ち講習、試験、教員檢定等を完成するための計畫を樹てた、而してこの結果として教員講習檢定會が出来上つたのである。一八七八年同會は第二流の教員のために講習學校を開いた。この講習學校は創設の際最も力を盡したウイリアム、グレイ夫人の

名を取つてマリア、グレイ講習學校と稱することゝなつた。一八八三年フレールベル會の講習學校がこれに繼承さるゝことになつた。即ちマリアグレイ講習學校の幼稚園部はその始フレールベル會の講習學校であつたのである。この幼稚園部を管理してゐたのはカセリン、フィリップ嬢であるがフィリップ嬢の次ぎにはマレーイがその業を引繼ぎ今尙働いてゐる。

ビショップ嬢はバーミンガムへ行つてその説を弘めた。

この試験的の幼稚園は現今ウエスト、ケンシントンのフレールベル教育學院の校長をして居るエツサー、ローレンス嬢の手に委ねられた。

一八七五年英國に於けるフレールベル教育法の首唱者の一人なるミカエリス嬢がクロイドンの幼稚園の校長となつた、これも女學校と幼稚園との緊切な關係の一つの表現である、ミカエリス嬢はペーリー夫人から任命されたのである、而してペー

リー夫人はクロイドンの高等女學校の設立に主要なる力を致した人である、ベリー夫人は婦人教育同盟會の會員であつたらしい。

クロイドン幼稚園は其後ミカエリス夫人の有に歸した、ミカエリスは委員會を設け自身は激務から離れた、ケートレイ、ムーレが有力の委員であつた委員會は一八八〇年有限責任クロイドン幼稚園會社となつた。この會社の設立は英國教育界のために眞に悦ぶべきことである。何故ならばこの會社が出来たためにミカエリス夫人がアメリカへ行つて定住することを思止つたからである。若しこの時ミカエリス夫人がアメリカへ行つてしまつたら英國現時の幼稚園界の花々しさも生じなかつたらうし又教育界全體を通じてフレーパールの精神、教育法も弘まらなかつたであらう。

ベッドフォード市も廳がてクロイドンの例に倣つた、始めから書記をしてゐたハリレイによるとベッドフォード幼稚園會社は一八八一年十一月に

成立したものだといふ、この會社の始めの管理者の中にはベッドフォード語學校の教頭フィリップスやモーダン學校の教頭ブー博士等があつた。

幼稚園は數度ベッドフォードの市長を勤めたジョセフ、ホーキンの盡力によつて設けらるゝに至つた、ホーキンはポーツマウスなるスイムス嬢の仕事とジョン、バウンズの獻身的の努力に興味を持つたのである、スイムス嬢はポーツマウスを去りベッドフォード幼稚園の教頭に招聘された。スイムス嬢の後を襲うたのは現在の校長アミイ、ワルムスレイ嬢である。

有限責任サットン幼稚園會社は一八八八年に出來た、スイムス嬢の高弟テインスレイ嬢がこの會社の幼稚園の教頭となつた。

クロイドン幼稚園會社は十年許續いたがミカエリス夫人がクロイドンを去ると同時に同社も廢滅してしまつた。

ベッドフォード幼稚園會社は今尙講習學校と豫

備學校とを花々しく經營してゐる。

サットン幼稚園會社は何時か自然に廢滅してしまつた。

英國に於ける最も有勢なフレールベル式機關はウエスト、ケンシントンのコーレット、ガーデンズにあるフレールベル教育學院である。これは一八九四年ミカエリス夫人を最初の校長兼組織者として設立せられたものである。設立首唱者はハンブルグで生れ結婚してからマンチエスターに住つてゐたサリス、シュワーベ夫人である。シュワーベ夫人は既にネーブルスでフレールベル學院を組織したことがあるので倫敦にも同様な學院を設けたいと思つてゐたのである。それで一時マリア、グレイ講習學校に入つたこともあるが同校では既に組織も完全してゐるし折角のその改良案も施す餘地がなかつたのである。

一八九一年シュワーベ夫人はミカエリス夫人に勸めてクロイドンに於けるその仕事を離れ倫敦に

赴いて斯學の研究者のために講習會を開かしたこの講習會が新に新しい學院の核仁となつたのである。

英國教育界に於けるミカエリス夫人の功は上に述べ來つた如く實に没すべからざるものが多々あるのである。

倫敦の學院は其後兒童の數も研究生の數も迅速に増加して行つた、一八九六年名譽會計クロードモンテフィオアの義侠に依つて新しい機關が設けられた、即ち講習學校と實習學校の他に授業料の低廉な幼稚園が設けられて研究生は幼稚園の兒童を實驗的に教へることになつた。

ミカエリス夫人は一八九八年から一九〇〇年までフレールベル會の會頭をしてゐた。一九〇一年ミカエリス夫人は校長の地位を去りすべての規則立つた約束から離れた、併し逝去の數月前まで幼児教育のために陰に陽に相變らずの助力を惜まなかつた。

ミカエリス夫人の出席した最後の公會はブラッドフォードに開かれたフレイベル會の協議會であつて夫人はこの席上五才以下の兒童の育兒學校に就て語つた。

フレイベル學院の校長としてはエツサー、ロー

レンス嬢がミカエリス夫人の後を繼承した。ローレンス嬢はフレイベル學院の幹部にならなかつた前にはベッドフォード、パークにある共學學校附屬の幼稚園の長をしてゐた。(續)

保育入門 (ハ)

倉橋惣三

八、幼稚園教育の方法

第二、其の材料——遊具

一

遊戯を誘導するに二つの手段がある。一つは遊戯法を教へるのである。一つは遊具を供給するのである。前の手段は『人』により、後の手段は『物』による。『人』による誘導は教育者の思ふ様になり従つて、所謂教育的形式を完ふることが出来る

しかし、それだけに誘導の作用が直接過ぎて、幼兒の自發が犯され易い。即ち自發的遊戯の最重要なる二つの特質が失はれ易い。茲に幼兒教育上の大いなる危険があるのである。然るに、『物』による誘導は、誘導の作用として甚だ間接的である。間接的であるだけに幼兒の自發を害する懼れがな

い。自發を害せずして幼兒の遊戯を誘導し得るもの——すなはち遊具は、幼稚園教育上主要なる位置を占むべき問題である。

幼稚園に於て用ゐらるべき遊具は種々の方面よりして種々に類別せられる。先づ第一に系統的遊具及び非系統的遊具の別がある。

(一)、系統的遊具は、遊戯による諸精神活動の誘導を系統的組織のもとに行はんとして、案出せられたものである。即ち其の各遊具は、明瞭なる目的と、豫定せられたる順序とを以て、全體として一つの統一を有する處のものである。一例としてフレーベルの『恩物』、モンテッソーリの『練習用具』等が其れであつて、之等のものが普通の玩具類と區別せられて、特別なるもの、如く見做されるのは、即ち其の系統的なる點によるのである。處が、系統的遊具には系統的なるが故に基く長所と短所とがある。先づ其の長所としては

(イ)、教育者の希望する部分的活動の發達に向つ

て、はつきりした誘導が出来る。例へば各感覺の練習、或は特に工夫力の練習、といふ風に、其の目的を定めて、比較的目に見えた結果を得られる。

(ロ)、其の系統組織が充分正しい場合には、幼兒の發達の程度に適應した與へ方が出来る、かくて順々に系統の立つた誘導が出来る。殊に簡單から複雑にといふ論理的な進み方が出来る。

(ハ)、一系統に屬する一組の内容が規定せられるから、其取扱ひにも整理にも、最も便利都合である。殊に、それさへ遊具として與へて置けば、他に格別な工夫も撰擇も要せぬといふ處に、手數の上の經濟がある。

次に短所としては

(イ)、系統といふこと夫れ自身が既に論理上の満足を主とするものであつて、之れが爲に自然抽象的になり易い。例へば視覺の練習、觸覺の練習といふ如き、精神生活全體の具體的活動の中から、其の部分々々を分解的に誘導するといふことは、

最も抽象的なり易い危険の伴ふものである。

(ロ)、殊に簡單より複雑に、所謂易より難にといふことが、成人の思考から割り出さるゝ時に、論理的弊害の危険は一層多い。蓋し幼児にとりては必ずしも成人と同様な論理主義を以て、經驗上の先後が定まるものでないからである。

(ハ)、之れが爲には自ら幼児の自發的興味に訴ふることが少くなる。謂はゞ理屈が勝ち過ぎて實際には幼児の生活にびつたりと合はないといふ風のことゝが起り易い。

勿論事實上、系統的遊具と雖も、それ程系統的に行はるゝものではない。大に廣い範圍に裕通せられるものである。是に於て、實際上は、系統的遊具と非系統的遊具とが嚴密に區別せられるのは考案者の考へだけであつて、幼児自身は別に之れに對して特別な使用を區別するものではない。若し區別したならば、自發遊戲の範圍は直ぐに超えられて仕舞ふ。それを超えてまで、換言すれば、

自發遊戲たることを失はしめてまで、其の系統的使用を強むんとするならば、もう既に遊具ではなくなるのである。其の誤れるは言を俟たない。

(二)、非系統的遊具は、普通の言葉に於ける玩具が即ちそれである。而して其の系統的遊具に對する關係は、教科書に對する普通の讀み本の關係であるかに考へられて居る。非系統的といふ點に於ては正に左様である。しかし、教育上の價值よりして此の譬は必ずしも當らない。小學校教育に於ては教科書が最も教育的のもので、普通の讀み本は面白いだけで、其の價值はずつと低いものと見られて居る。しかも、幼稚園に於ては、非系統的遊具の價值は、教科書たる系統的遊具に比して、必ずしも下位に位するものではないのである。『思物』といへば教育的に意味深いものとなり、『玩具』といへば教育的意味の淺いものである如く考へられたならば、それは何等理由のないことである。自發遊戲の誘導法として、同様に意味の深い

ものである。殊に

(イ)、非系統的遊具が幼兒生活に對して、具體的なることは、その第一の長所である。前に述べた如く、系統的遊具と雖も、幼兒は之れに自己の全生活を活動せしめるが普通ではあるけれども、非系統的遊具に於ては、一層具體的に生活せられる假令ば人形の如き、電車玩具の如き、いづれも幼兒の生活を或る種の感覺とか、心作用とかに限り活動せしむるものではない。従つて、其れによつて生ずる發達の成績を、はつきりと測定計算し得るものではないが、全體として統一した發達が期せられる。而して之れは何より貴重なることである。

(ロ)、是に於て、非系統的遊具は、其れが誘導する精神活動の、なるべく多面的なるをよしとするのである。勿論、玩具を其の主として活動させらるゝ、精神活動により分類することは、研究上便利なることではある。しかし、之れと玩具の實際

の作用とを混同してはならない。若し、玩具にして、たゞ一方面的の精神活動にのみ關係する如きものあらば、それは系統的遊具の一種に數へらるべきもので、非系統的遊具としては、其の價値の甚だ偏せるものである。偏せるだけに價値の少ないものと言はなければならぬ。

(ハ)、系統的遊具は、系統的遊具に比して、論理的に甚だ亂雜無秩序である。難易簡複の順序も明かには立て難く、嚴密なる意味に於て發達段階の順序を定めることも出来ない。之れが爲に何となく教育的でないかの様に考へられ易い。しかもその無順序に見えるのは成人の考へからである。幼兒は其の發達相應に之れを使用して誤らないのである。而して、元來が非系統的であるから、幼兒の自在なる使用活用に任せて、何の不都合もなく不道理もない、かくて、非系統的遊具は其の關與する精神活動の多方面なる處に眞價の存すると共に、又その各種の發達段階に順應する處に其の

眞價が存するのである。而して、之れは、多くの幼児に一種の遊具が適用せられ得るといふ便宜の上からではなく、以て、存分に自發的ならしめ得るからである。

かくて、非系統的遊具は、系統的遊具と、少くも同等位を以て幼稚園教育に重要なものとなる。然るに、幼稚園の教育は主として系統的遊具により、非系統的遊具は、家庭用に限らるゝか、さなくも幼稚園教育に於て副の位置に置かるゝといふことは謂れなきことである。殊に、具體的なれといふ原則に基いては、非系統的遊具に最も望ましき條件が具有せられて居る譯である。

二

非系統的遊具は、之れを大きく三種に分類することが出来る、(一)實體遊具、(二)使用遊具、(三)材料遊具、之れである。先づ、實體遊具に就て考へよう。

(一)、實體遊具、實體遊具は、それ自らに一つの

完全體として取扱はるゝもので、通常謂ふ處の玩具の多數は之れに屬する。其の最も簡單なるものにあつては、必ずしも形態を主とせず、其の色、其の音、其の觸覺等が主になつて居るものもあるが、少くも幼稚園期以上の幼児に用ゐらるゝものにあつては、大抵何物か實物の形態を摸したものである。或は必ずしも模造品のみならず、實物がそのまゝに遊具として用ゐらるゝこともあるが、その場合に於ても勿論一つの遊具として使用せらるゝのである。

實體遊具の種類は非常に廣汎である。謂はゞ自然界及人事界の萬象一切に涉るので、それに相應する一切の生活が遊戯せらるゝのである。即ち、實體遊具は、それ／＼の生活を誘導するものである。假令ば、小鳥を摸したものは、實物の小鳥に對する愛翫、飼育等の生活を遊戯として誘導するのである。飲食の器物を摸したものは、所謂まゝ、ごととして、實際の對客響應の生活を誘導するの

である。電車、船、自動車、皆それ／＼の交通器
關に對する生活を誘導するのである。而して、
幼兒は成人の實生活を傍觀して、活潑なる好奇心
を心の中に促されて居る。それが、之等の遊具に
よつて、實現せらるゝ處に満足と興味とが起るの
である。是に於て、幼兒の好奇心をなるべく完全
に實現し得るといふことが、實體玩具の重要條件
になる。そこで第一

(イ)、實物に近いものでなければならぬ。實物
通りといふことは望み難いこと、又必ずしも夫れ
程必要のないことであるが、實物との違ゐが餘り
遠い時には、それに對する生活の實現は困難であ
る。但し、實物に近いといふには、二つの主なる
點がある。其の一つは形とか色とか、即ち目に見
た處が實物に近いといふことであつて、もう一つ
は、その取扱はれ方が實物の場合と同様といふこ
とである。而して、前の條件も勿論重要であるが
幼兒の好奇心の實現のためには、後の條件が最も

大切である。若し形態色彩等の點巧妙を極めて、
實物の點に迫るものあるとも、之れを其の物らし
く取扱ふことが出來ないものならば、幼兒の興味
は決して満足せられない。成人の翫賞用としては
兎も角く、幼兒用遊具としては不適當なるもので
ある。

(ロ)、但し、實物らしく取扱へるといふも程度は
いろ／＼である。のみならず、幼兒の要求の程度
それ自身がいろ／＼である。假令ば自動車にして
も、大體類似の形を有して、而して動かし得れば
よいといふ程度もある。巨細の裝置微に入り精を
盡し、且つ自動的に走るのぞなければいけないと
いふ程度もある。又此兩極端の間に幾十段階の差
等がある。其の中で成るべく眞に近い程製作品と
して立派なものに違ひない。しかも實體遊具とし
ての價值如何といふことになれば、必ずしも此の
標準と一致しない。要するに幼兒の要求の程度に
應ずればよいのであるから、それ以上は餘計のこ

とになる。或は過ぎたるは尙及ばざると同様な
短所となることもある。

但し、幼兒の要求の程度は次第々々に高くなる
時には極めて急速な進み方をする。此の場合、昨
の適應は今日の不満足となる。不満足となつたら
ば遊具の方も亦一段進歩しなければならぬ。しか
し、初めより其の用心をして、中々不満足に達し
ない程度のもを、所謂先を越して興へて置くとい
ふことは教育的でない。教育的には、その不満足
を味はせるといふことに價值があるのである。
いづれにしても、今の程度に適應するものでなけ
ればならない。

(六)、堅牢といふことは、實體遊具の貴重な條件
である。取扱ふて直に破損するようでは、結局、
使用上の好奇心を實現せしめ得難いからである。
此の點は實物と遊具と甚しく異つて居る點である
實物なれば、其のものによつて、必ずしも絶対に
堅牢のもの許りとは限らない。硝子瓶、瀬戸物の

皿は破損し易い。しかも、その遊具は容易に破
損しないものでなければならぬ。

但し、兒童の發達の進むに徒つて、此の點に於
ても、實物らしい性質の別を具へしめて、そこに
一種の教育を興へる必要も起らないではない。し
かし、幼稚園時期に於ては、堅牢にしてよく用い
たえるといふことが、幼兒をして思ひ存分の實現
をなさしめる上から必要のことである。

(二)、使用遊具。實體遊具はそれ自身に於ては主
として實物の模寫である。それ自身特に工夫せら
れて居るものではない。しかも、使用遊具は遊び
方を考案して、それに使用せらるゝ様に作られた
ものである。従つて、其の使用法が定まつて居て
その通りに使用する時、始めて、其の遊具の有す
る價值も興味も出るのである。其の點に於て、系
統的遊具と大に類似して居る。たゞ、そこ迄組織
的でなく、多くは斷片的考案であること、興味の
方が比較的主になつて居るだけの違ひである。例

令ば、獨樂、お手玉、智惠の輪等の如き、之れを用ゐて遊ぶことによつて、斯くの如き價值あり、斯

くの如き興味ありとは考へられて居ても、別段秩序立つた系統が作られて居るのではない。

實體遊具の純誘導的なるに對して、使用遊具は多く練習的である。一言にいへば、上手になるといふことが多くの場合含まれて居る。こゝに此の遊具の意義の中心があると言つてもよい。即ち、

系統的遊具の長所が、此の遊具の長所として具有せられて居る譯なのである。

(三) 材料遊具、に就ては後章手技の問題と併せ考へることにする。

雜 錄

○フレーベル會總會

昨年規則改正によつて本會總會を秋季に開くことになりました其の第一回が此の十月下旬を以て催さるゝ筈であります。期日其他の詳細は來月發行の本誌上に掲載致しますが、當日は大家の講演其他會員相互の懇談等によつて、愉快な且利益多き會合たらしめたいと計畫して居ります。殊に東京帝國大學教授松本文學博士も有益なる講演をなさつて下さる様に御内諾を得てあります。多數の方の御來會を今より希望して置きます。

○幼兒教育暑期講習會

本會主催幼兒教育暑期講習會は豫定の通り八日一日より十日間東京女子高等師範學校講堂に於て開催せられました。百名に近き聽講諸君が、遠きは滿州、朝鮮、其他内地各地方より來會せられた例年になき酷暑の中を、始めより終りまで熱心に講習せられたことは、本會開催の趣旨を完ふし得たものと言ふべきであります。菅原講師は多數の圖表繪畫を供覽して、美的陶冶の基礎問題につき講義せられ、藤講師は、懇切なる熟練なる指導法を以て、簡單玩具製作の實習を與へられ、倉橋講師は幼兒教育に於ける訓育につき暗示を與へられ、斯くて全十日間の講習は直接間接幼兒教育上補益する處少くなかつたと信するのであります。殊に六日午後、菅原講師の講義に關聯して、琴曲の名手鈴木鼓村氏の我國音樂の變遷に關する講演及び氏の作曲にかゝる童曲の演奏あり、又八日午後二葉幼稚園の參觀、九日午後は會員全部の懇談會等特別なる催しの他、其の他の午後も熱心なる諸君の多數が殆んど夕刻に近くまで玩具實習をつゞけらるゝ等。會期中の時間は實に一

杯に利用せられたのでありました。尙ほ又、前號本誌にも述べてありました通り、今講習會は、必ずしも直接教育に従事せられない方々の來會をも希望したのでありました處、幸にして斯くの如き篤志の方數名をお迎へし得たことは、本會の實に愉快とする處でありました。

○大阪兒童學會の創立

日本兒童學會が本年五月大阪市に其の總會を開きたるを機會として、同市在住の同會々員諸君の間に大阪兒童學會設立の計畫が出来、左の通り組織せられました。同會には同市幼稚園保母諸君の力を盡さるゝ處多く、大に有益なる結果を擧げらるゝことと信ずるのであります。

大阪兒童學會規則

第一款 組織

本會ハ大阪府下ニ居住スル日本兒童學會員ヲ以テ組織ス

第二款 目的

本會ハ兒童ノ身體及精神並ニ其教育養護、社會及法制上ノ諸關係ニ關スル講演談話又ハ研究調査ヲ爲スコトヲ目的トス

第三款 集會

本會ハ毎月一回(第二火曜日)常會ヲ開キ、毎年一回大會ヲ開ク

常會ハ其都度會場ヲ定メテ開會ス

大會ヲ開カントスル場合ニハ豫メ日本兒童會本部ト協議シテ期日及順序ヲ定ムルモノトス

第四款 記事

本會ニ關スル記事ハ日本兒童學會發刊「兒童研究」ニ載録シテ之ヲ發表ス

第五款 會費

本會員ハ日本兒童學會々費(一箇年金壹圓八拾錢)ノ外ニ毎月金五錢ヲ納ムルモノトス

日本兒童學會々費ハ月割(毎月拾五錢)トナシ本會之ヲ徵集シ日本兒童學會本部へ納付スベシ
日本兒童學會々費及本會々費ハ數箇月分又ハ一箇年分ヲ前納スルコトヲ得

第六款 役員

本會ニ幹事二名評議員若干名名譽書記一名ヲ置ク
幹事、評議員ハ大會ニ於テ本會員中ヨリ之ヲ選舉シ日本兒童會本部ノ承認ヲ受クルモノトス名譽書記ハ幹事ノ推薦ニ依ル幹事、評議員ノ任期ハ一箇年トス
尙ほ、同會假事務所ハ大阪市西區本田二番町木田幼稚園内に置かれ、役員は左の諸氏であります。

幹事 岡村増太郎 鈴木券太郎
評議員 乾 奈真松 大久保直穆
小笠原 松枝子 和田 豐種
田中 樂吉 和 森 端
入木庄三郎 山村十野子
松本朝吉 福原義柄
福島德平 小山ヒデ子
朝山守 宮島茂次郎
姫岡豐吉 膳 竹子
名譽書記 三宅友子

○大阪兒童學會常會

(兒童研究第十八卷第一號より)

七月十四日午後三時より大阪市南區三津寺町御津幼稚園に於て常會を開き左の講演あり。(中略)

次で研究問題(我國在來の玩具を幼稚園恩物として應用することに就きての考案)に移り、小笠原松枝女史は、恩物の定義より定めてがいらざるべからざることを喝破し、フレーベルの根本主

義を説明し、往年大阪市の保育會に於て恩物の定義如何の案を出したりしことあるも遂に不要領に了はししことを語り、或論者の恩物即玩具、玩具即恩物てふ見解を紹介し且批判し、此種の見地を以てすれば、本問題は無用に歸せざるを得ず、蓋恩物に必要とせらるゝ資格は(一)堅牢にして永く保存に堪ゆること、(二)創造工夫するに從て益々變化あること、(三)感覺、能力等の發育を助成すること、(四)取扱上危険性の少きこと、(五)代價低廉なること等なりと斷じ、我が國民性其他社會上の關係より恩物の性質にも變化あるは止むを得ざることを説き、本問題に就ては尙考案を重ねて研鑽せんと欲すと述べ、次で膳竹子女史は、玩具を研究すれば、幼稚園恩物に利用せらるべし、風車、旗、人形其他に於ても之を應用し加減すれば觸覺、筋覺等の感覺教育に資するもの多からん、而かも在來の玩具は其の性質上、出来上りたるものなり創造工夫を容るゝの餘地蓋少からん、在來玩具は變化性に缺如す變化性に富まざるものは兒童を倦怠せしむ、幼稚園恩物は變化多し、但し抽象的なるを遺憾とす、是故に幼稚園に於ては恩物、玩具を併用するを利とすと述べ、次で三宅友子女史は、幼稚園にては如何なる玩具を用ふるも可なり、フレイベルの創作したるものも必ずしもフレイベルの精神のみにては使用せしめ居らず、其の精神を多少斟酌す、兒童に整理整頓の心を養はしむる爲めに現に取次恩物を用ふ、而かも在來の玩具も使用することを憚らず、嬰童の發育上は、物に對する感覺、諸能力の發育に資する爲めに、玩具に對する來玩具を用ふるを可とすと説き、本幼稚園に於てモンテソリー教育法の自由活動主義に準據し、生徒をして自發的に作業し遊戯せしめたる考案及び經驗を紹介したり、次で小山秀子女史は、恩物の意義に就きて國性、人性等に參酌し多少の差異なきを得ず、併し大阪に於て現に使用せらるゝものに就きて少くも一種の纏まりたる標準を必要とすとの見解より、從來先輩に就き又は自己の研究に訴へたれども今日迄何等合理的解決を見るに到らざる遺憾とすと前提し、室に入れて保姆が指導して用ふる

時、若くは兒童と遊びて居る間を結び付くるものは廣義の恩物なりと解すべきかと論じ、御津幼稚園に於ける諸種の經驗工夫を語り、玩具を恩物以上に利用することに就ての苦心を述べ、次で土岐八重子女史は、起つて既に諸氏の發表あり目下差當り特殊の考もなしとの挨拶を爲したり。

此日炎熱劇かりしに拘はらず會員諸氏の參集多く、尙會員外にては同幼稚園部内の學務委員其他有志家の多數傍聴ありて甚だ盛會なりき。

次の常會は九月二十二日午後三時より大阪市北區堂島幼稚園内に於て開會する豫定なり。

○成田幼稚園の主任保姆招聘

千葉縣成田町私立成田幼稚園にては主任保姆として適任者を得度く、廣く希望の人を江湖に求めて居られます。同幼稚園は廣大なる遊園を有し、園舎も完備、最も其の保育上の理想を行ふに適して居ります。熱心と經驗とに富める好主任保姆を得たいものであります。希望の方は本誌廣告の通り履歴書を添へ、同園理事三橋重郎兵衛氏迄至急申出られたしとのことです。

○鐵道旅行案内

鐵道院にては旅行遊覽の客の爲に、詳細なる鐵道旅行案内を出版しました。其の輯録體裁共に用意周到を極め、内地各鐵道附近は勿論附録として朝鮮、南滿洲、臺灣、樺太等の鐵道の名所繪を盡して居ます上、多くの風景寫眞を挿み、殊に廣重の及ぶ綿密色刷小木板として挿入せる如き、趣味の上よりも好冊子であります。尙ほ便利の爲め東京博文館をして發賣せしめて居るといふこととす。(定價金一圓貳十錢)

フレールベル自傳

(第九回)

(マイニンゲン大公に宛てたる書翰)

倉橋惣三 譯

六十五、自由な地位

以上が私の教師としての最初の試みの結果でありました。自分の善き計畫のためよりも私に與へられた恩寵と賞讃とが、又實際的の行動よりも私の熱誠の炎が、眞の教育の性質に就て深くも尋ね入るやうに私を勵ましました。

けれども大きな學校の全組織には前々から時間と學課とを案配した教授案があつてすべてのことは時計の仕掛のやうにその場所に適合すべくそれ相當な形式が備つて居ります、然るに私の組織は敏き感覺と眼覺めたる智性とに訴へるばかりであり、定つた形式はそれに活氣を添へ生氣を加ふる點に於てのみ私の教育の意見を是認いたしま

す。けれども私は私の生涯の中に如何に活氣ある生活も若しその活氣と生氣とが適當に理解され常に促進せしめられなければ直ぐに骨々しい頑固に硬ばつてしまふといふことを不幸にも幾度も幾度も實驗いたしました。

充分に眼覺めた私の心はそれが必要であつたにせよ是等の定つた形式に拘泥することが出来ませんでした、而して私は私の生と私の心との發展の必要に關して自由に私の性質を延ばして行くことの出来る地位を探さなければならぬと感じました

六十六、アルンドの「修養雜話」

外的範圍の制限に従ふことの出来ない生と心の憧憬的努力は購ひ求めたアルンドの「修養雜話」

に親しむやうになつてから益々激しくなつて來ました。

この本は直ちに私の人格、私の決心、私の所志に合致しました、而して今まで私の心内に遊離してゐた所のものはこの本の頁を通じて秩序ある結合に持ち來されました、同時に私を領してゐた私の氣附かなかつた意志はこの本がそれを明かにするに従つて定まつた形式と表現とを取りました、事實、私はその頃アルンドの著書を教育の經典の如くに思つて居りました。

その頃には私は私の生活及び私の目的に就て次のやうに語りました。

「私は神の地に立ち、深く自然に根ざし、而かも頭を天に沖ひらして絶間なき注視を以てその祕密を讀み、その心は地と天との兩つながらを抱き、種々の形體に富む地と自然との生活を樂しみ、而して同時に神の地と神の天とを愛に於て結合する天の純潔と平和とを認める人々を教育したい」

是等の言葉の中に私は今私の前に開陳された私の以前の生活と目的とを繪に描いたやうに明瞭に見ます。

模範學校の職任から逃れたいといふ願望が少しづつ、私の心内に力を得て來ました、模範學校へは私は教師として少くも三年は結び付けられて居りました。

私が既に記名した校長（グリーンネル）は私のやうな激し易い人間は彼の管理するやうな學校では調子よく働いて行くことが出來ないといふことを知りませんでした。乃で私は適當な後任者を供給する約束で私の職を解いて貰ひました。

運命は又私に幸でありました。

六十七、佛蘭西語研究

私はそれまで長い間親しく文通してゐた若い家庭教師に氣が附きました、その人は私に缺けてゐる諸種の資格を備へて居りました。

その人は常に國語（獨逸語）の文法に精通してゐたのみならず、古語の文法にも暗くありませんでした、而して確か佛蘭西語も出來たと思ひます

その人は私の誇り得る何物よりも深く地理學を知つて居りました、歴史を知つて居りました、算術が出來ました、植物學も少しは知つて居りました——實際思つたより遙かに豪い人でありました而して以上のすべてよりもつと値打のあることはその人は智にも情にも生活にも元氣が充満してゐたといふことです。

それ故學校は私の退去によつてあらゆる點に於て利益を得ました、それ以來もう改革を行ふ必要を認めない位にまで學校に取つては利益でありました、この同じ教師が今でも（一八二七年）生きてゐて同じ職務に働いて居ります。

私が私の生涯の新しい章を始める前に記さなくてはならぬことが尙少し許あります。

佛蘭西語の智識は當時なくてはならぬものとき

れて居りました、佛蘭西語を知らないといふことはその人を直ちに修養の極く低い階級に屬させてしまひました。

それ故に佛蘭西語の智識を得るといふことは當時私の主なる目的の一となりました。

幸ひにして私は佛蘭西生れのエム、パーロールといふ年は取つてゐますが國語の研究に熱心な而して巧みに獨逸語を書いたり話したりする又と得られない佛蘭西語の先生に教へを受けました。

私は一日に二度づゝ勉強して熱心に研究を續けました、何故ならば私は或る期間までにいつばし佛蘭西語が話せるやうになりたいと思つたからであります。

併しながら私の進みは遅くありました、何故ならば佛蘭西語を學ぶための橋梁となるべき獨逸語の智識が充分でなかつたからであります。

六十八、誤れる語學習得法

私は私に緊切した意味で充分に理解されなかつ

たことを本當に習得することは出来ませんでした
而してそれがために私はこの研究に費した混り
氣のない熱心と驚くべき費用とに相應するやうな
結果を得ることは出来ませんでした、けれども私
はかなり習ひました、私がある頃如何に利用すべ
きかを知つてゐたよりもつと多く習ひました。

私の先生は佛蘭西語研究のすべての平凡な文法
的困難を片隅に押しやつて置いて國語をきたたも
のとして授けることを念として居りました。

けれども語學に對して無知な私はこの自由なる
教授方法に遺憾なく従つて行くことが出来ません
でした、而してそれにも拘らず私は先生がその仕
事の意味と方法とを十分に了解してゐると信じて
居りました、而して私は常にこのために悦んで練
習を怠りませんでした。

先生は殊に佛蘭西語の發音を私の耳に馴らすこ
とに於て巧妙でありました、先生は何時いつも佛蘭西
語の發音をその單純な音と調子とに分解し、類別

し、決して唯單に、これは獨逸語のペーと同じに
發音するのであるとか、ペーに似てゐるとか、エ
ーだとか、オエーだとか云ふだけではなかつたの
であります。

この研究の課程から生じた最上の事柄は獨逸語
の文法に關する私の無知の遺憾なき暴露でありま
した。

私は生活と相互連結若くは論理的の斷案をも獨
逸語文法の中に持ち來さうとして著名な獨逸語文
法家の著書を熟讀したことを正直にお話しなけれ
ばなりません、けれども私はそれによつて益々私
自身を困惑させたばかりであります。

或る文法家が説く所は他の文法家の説く所と丁
度正反對でありました、而して私の知つてゐた範
圍では是等の文法諸家の中誰一人として言語その
もの、生命と自然とから定理を抽き出したものは
ありませんでした。

私は再び落膽して獨逸文法家から離れました、

而して更らに自己の路を辿りました。けれども悲しい哉文法の乾涸した規則は私の意志に逆つて私の知覺を暗まし鱗のやうに私の眼を蔽ひました。私は如何してもこの形式から逃れることが出来ませんでした、而してそれはその時以來長く私に禍して居ります。

規則を知れば知る程それは私を硬張らせ又壓倒しました。

六十九、家庭教師の後任者なし

私が學校を去るといふ事は今や取極められました。而して私は自由に、縛られずにその發達を私の心に追及させることが出来ました。

これまで通り、親切な運命はその時も又私を助けてくれました、私はそれに對して感謝し切れないのであります。

私がそれまで算術と國語とを個人的に教へてゐた三人の少年は今までの教師が去るので他に新しく教師を迎へねばなりません。

私の知人の中から彼等に適した教授者兼教育者を一人探してくれと私を見込んで頼まれました、何故ならば私は皆の中で一番よく彼等の性質とその缺點とを飲込んで居りましたから。

私自身に就て言へばこの家庭教師の仕事は私の考とは掛け離れて居りました。而して私はそこであらゆる方面を熱心に誰か適當な人はないかと思つて探しました。

幾人もの中で私は私の長兄に教育者としての缺くべからざる要件に關する私の意見を示して訴へてみました。

長兄は甚だ明解に且つ簡單に返事を寄越しました。長兄は私の示した要件に適ふやふな教授者兼教育者を私に推薦することは出来ない又決してそんな人を私が得ることは出来まいと思ふ、何故ならば若し豊かな智識と外的方面に於て生活の經驗を持つてゐる人が見附つたとしてもその人はその人自身の力ある内的生活に於て將又その内的生活

をその人自身の内に又その人の生徒の内に認め而してこれを育んで行く力に於いて欠けてゐるであらう。それから又この力を持つてゐる人があつたにせよその人は初に擧げたやうな實際的資質に乏しいであらうと言つてよこしました。

私は私の奔走の結果を知らせました。

それがために少年の両親は非常に落膽しました併し苟くも少年達の幸福が愛と眞實とを持つて眞剣に求められ、而して又當時得らるゝ至高至善のものも彼等のために要求されて居たならば如何しても私の思つた通りの教師を選ばなければならぬのであります。

家族の人々は私が自由と獨立とを愛するのを知つてゐますので無理に私をその位置に止めやうとはしませんでした。

七十、少年の愛情と母親の信用と

斯くてこのまゝ數ヶ月は経ちました。遂に少年に對する私の強い愛情と教育といふことを全然私

に任せてゐる母親の信用とに報ゐんとする私の心遣ひとに動かされて私は両親の立場から彼等を見ることに努めました、これは遂に私自身を少年達の教育者兼教授者たらしむる決斷に私を導いて行きました。

自ら苦しみ藻掻き、長い間苦しさを堪へ忍んだ後私は私の決心を明にしました。

それは喜んで迎へられました、而して私に如上の決心をさせたその心持を以て理解されました。

私は依然最も親しい關係を保つてゐたグリーンネルに私の所決を知らせました、彼は非常な驚きを以て私を見ました、而して「貴君は長い間探し求め、待ち設けてゐた地位に達すべきあらゆる望みを失つてしまふでせう」と言ひました。

私はチャンと契約證書に依つて私の地位と他に對する私の關係とに關して私自身を防護することが出来ると答へてやりました。

これに對して或る經驗家が遣り返して「貴君が

しつかり取極めたすべての條件の中一つでも認められないなぞといふことがないやうに確かに而してすべての事が几帳面に充たされるでせう、がそれでも尙貴君はすべての點に於て失敗して居ることが分るでせう」と言ひました。

抜目のない経験家は斯う話しました、而して私はそれに對して何と言はなくてはならなかつたでせうか。私は是等の子供の教育の必要と欠乏とに就て話しました、彼は「成程、しかし貴君は貴君自身の教育の必要と欠乏とを問題にしてはゐないのでですか」と言ひました。

これは如何に私を恥ぢしめたでせう、通常の考へで這麼ことが言へたものでせうか、私は之を辯駁することも出来ませんでした。私達はもうそれ以上この事に就て話しませんでした。

七十二、不斷の争闘の公開式

而してこの決斷と私のこの決心とを固めるために内的の苦悶が激しくありましたが新しい地位に

入つて行かうとする外的の苦悶も等しく鋭いものでありました。

私達の約束には則ち二つの不易な條件がありました。

一つは私は決して生徒と共に都に住むことを肯じないといふことでありましたが、而して私が私の職務を始めた時に私の生徒は何等の制限もなく全然私の手に委ねられることでありました、生徒等が私に従つて田舎へ行くことでありました。而して其處で限られた完全な隔離せられた一團を作り彼等が都會生活に立歸る時こそは教訓者としての私の職責が終る時でなければならぬと云ふことでありました。

私の新生涯を始むべき時が近附いて來ました。

私と私の生徒の入るべき注文の住家が未だ用意されてゐなかつたので私は數日間生徒と共にその都の家に假の住居をする事になりました。

けれども私は始めに於て嚴格の些かの欠乏でも

私の全教育計畫を害ふことの明かなるを感じてゐましたので私は嚴格に構へて居りました、而して片意地な我儘な頑固なものと言はれるのをも關はずに私はこの特徴を身に備へました。

私の地位の僭取が鋭い争闘に伴はれたといふことは私に取つて甚だよい而して健全な教訓でありました。

それは私に取つてはこれから執るべき永久不斷の争闘を伴ふ地位と仕事の適當な公開式でありました。けれどもこの家族とすべての人々に關して云ふならば私が決心を屈せずに保持して行つたといふことは彼等に非常によい結果を興へました、其後私がこの地位を去つてずつと後のことではあります私に家族の人々の理解と賞讃とを得ました。

それは十年か十一年後のことでありました——即ち私が去つてから四年か五年になります——少年達の母親は私が私の職務の中に現した確乎たる

忍耐力を言葉を極めて賞讃しました。

七十二、世間を知る

一八〇七年の七月私は私の教育の仕事の新しい範圍に入りました。私は歲月の經る所では二十五歳になりました、けれども私の人格の進展に關しては尙數年若くありました。私は自分でそれだけ年を取つてゐると感じませんでしたし又私の年に關する概念をも識認をも持つては居りませんでした。私はたゞ私の生活の力と争闘、私の心的修養の範圍、世間に於ける私の經驗した事柄を自覺してゐたゞけです、而して殊に——何といつたものでせうか——外的世界に即しては何のたよりもならないといふ所から見て私の修養の腑甲斐なさや停滯した状態とに自覺したばかりです、生活の眞の有様とその外部に於てそれが如何に現はされてゐるかといふことの兩つながらに關して私が無知であつたといふことを自覺したばかりです。

私の修養の状態はその時以來私自身がすべて既

存の諸方法と矛盾し反對してゐる所から私を争闘の中に投げ込む役目をしたばかりです、而してその結果として私の家庭教師としての生涯の全部は一つの間斷無き争ひでありました。

極くの始めからこれが私の定められた運命であつたといふことは私に取つて有利なことでありました。

それ故私はこの時以來慰安と鼓舞とのために「お前はそれが如何なつて行くかを前々から知つてゐた」といふことが出來ました。而かも不快が稀に豫期されたるまゝの形をして到着します、而して豫期しない者は常にそれを忍ぶのに最も困難を感じます。

右の事に就ては私は上に述べたやうであります、私の境遇は打ち克ち難い困難を含んでゐるやうに見えました。

私は不完全な修養の中に是等の困難の根底を求めました、而して私が得た所の修養の孤立的の性

質の原因は私の見た所では私の大學生活を害うた所の障礙の中に横つて居ります。

七十三、更に大學に學ばんとす

併し私は教育者兼教授者になり而してそれを續けて行かうと決心しました。而して私は私自身の感情と私自身の力とを知ることが出來た上は人間及びその性質及び當時分りかけて來た關係に對する考へを根底として他に頼らない自由な私自身の流儀により私の職務のために義務として盡し又それを喜んでしました。然かも人といふものは己を知るといふことを最も難いこととして居ります。殊に私の場合に於てそれは一層困難であります、私は自身外部からの援助を求めなければなりません、而して私の要する智識と經驗とを他人から得やうと試みなくてはならぬといふやうに考へ始めました。

斯くて私は私の教育的企圖の創始者、主唱者、管理者となるべく再び大學へ行つて研究を續け自

身に箔を附けやうと考へました、けれどもこの事は私が進んで行つた教育の道からは離れてゐることが考へられなければならぬのであります。

扱て教育の不完全といふことが私を壓した時に私は昔のやうに圖らずも學校が私に教へてくれた自然なるものに援助を求めたのみならず私は教育教授の分野を異つた科學に分割しこれに豊富な文學の援助を加へた私の同輩の助けをも求めましたこの助けの缺乏が大層私を惱ませ壓倒しました而して私の全性質を非常な混亂に投げ入れましたそれがため私は心を決めて出来るだけ早くもう一度何處かの大學に入らう、それには兎も角出来るだけ早く教育者としての私の職業を放棄しやうと思ひました。

私は今まで重大事件はすべて兄と相談することになつてゐましたから私はこの時も例の如く兄に私の計畫と決心とを書き送りました。けれども今度は少くも私の性質は兄の助力を乞はずにその困

難を切り開いてゆくことが出来ました。

私は直きに私が私の地位を評價し害ひ又私自身を誤解したといふことに氣が附きました、乃で私は私の第一の手紙に對する兄の返書を得る前に私が大學に行くことを思ひ止つたこと並びに私の動かぬ決心は今では私の地位に止るといふことであると書いてやりました。

兄は私の決心を非常に悦びました、何故ならば今度は兄は私に同意することが出来なかつたからであります。

幼 稚 園 用 品

家 庭 用 玩 具

東 京 九 段

フ レ ー ベ ル 館

新 築 後 工 場 も 整 頓 致 し 店 精 也 片 々 申 候 間 益 々
業 務 奮 勵 仕 事 物 品 選 精 格 價 最 廉 御 意 願 上 候
需 應 可 申 候 付 倍 舊 御 愛 顧 願 上 候

日 本 玩 具 研 究 會 會 員 募 集

會 費 は 一 月 五 拾 錢 に て 研 究 し た 面 白
い 御 爲 め に な る よ い 玩 具 が 毎 月 得 ら れ
ま す (申 込 次 第 規 則 書 送 る)

本 會 評 議 員

巖 谷 小 波	甲 賀 藤 子	吉 田 熊 次
多 田 房 之 助	野 口 ゆ か	倉 橋 惣 三
黒 田 定 治	久 留 島 武 彦	山 脇 春 樹
町 田 則 文	小 西 信 八	三 土 忠 造
三 輪 田 元 道	莊 司 市 太 郎	森 村 開 作

本 會 幹 事

稻 垣 知 剛	和 田 實	河 野 清 丸
高 市 次 郎	曾 根 松 太 郎	武 藤 忠 義
野 村 忠 寛	松 田 茂	藤 五 代 策
岸 邊 福 雄	御 園 生 金 太 郎	

申 込 所 東 京 九 段 日 本 玩 具 研 究 會